

温泉通信簿・肥後の巻

菅田一郎（R S K O B）

「阿蘇に行ってきたよ」「あっそう・・・」面白くもおかしくもない。

「一週間、温泉巡りをして来た」「へエ～一週間も」と軽蔑と驚きの返事が返ってくる。11月上旬、熊本県内に絞って行ってきた。おこがましいが宿の通信簿をつけてみた。

《宿泊編》

① 休暇村南阿蘇

連泊した。民放健保の補助を使うためである。阿蘇南麓の高台に贅沢な敷地を持つ公共の宿である。あちこちの休暇村に泊まったが、どこも最高のロケーションと広大な敷地が特色で、お役所天国日本の恩恵をありがたく頂戴する。

部屋数 70、風呂（浴槽数）6、天然温泉で大きい浴槽は循環、一人用の壺湯のみ源泉掛け流し、アルカリ性単純泉。客は高齢者が多く食事は朝夕バイキング。

【宿泊料金】@8,800

【通信簿】

部屋 4、料理 3、風呂 3、サービス 2、設備 4、清潔感 4、立地 5

【総合】★★★★



休暇村南阿蘇



休暇村から根子岳を望む

② やまなみ（産山温泉）

休暇村から車で北へ約1時間、やまなみハイウェイの近く、小さな集落にある。

じゃらん、楽天などのユーザー評価が高い。日本秘湯を守る会の宿。部屋数11、風呂6、アルカリ性単純泉全て源泉掛け流しつるつる感あり、内風呂3、屋外3、大浴場2は男女入れ替え制で他は家族風呂、「入浴中」の札を出しておけば邪魔者なし。

昔民宿をやっていたが、地下1,000メートルボーリングして温泉を掘り当て、人気と相まって名をあげた。女将の30種以上の自家製漬物が名物。料理も手の込んだものがあたたかい物はあたたかくこまめに出てくる。平日にも拘わらず満室に近かったのが玉に瑕。

【宿泊料金】@13,000

【通信簿】部屋4、料理5、風呂5、サービス4、設備4、清潔感5、
立地5

【総合】★★★★★



やまなみの玄関



かぼちゃ湯

(隣の露天風呂と男女入れ替え)



田舎の湯（屋外の家族湯）

③ 静泉荘（満願寺温泉）

産山温泉から車で西へ30分。老舗旅館だが超鄙びて好き嫌いが分かれる。

部屋数 7、風呂 2、宿の地下5mからポンプで汲み上げた源泉がドバドバと溢れかえる、アルカリ性単純泉。宿の前の清流にある外湯は足元湧出だが道路から丸見えで勇気がいる。

85歳の女将がとてもその歳には見えない艶々。目も耳も達者、会話もテキパキしている。玄間を掃き清め打ち水をしていていた。ほかの客はおらず貸し切り。建物の古さは否めず廊下の衝立の奥に使わなくなった部屋が目立つ。暗がりの不気味。主人が心を込めた料理が膳に並ぶ。帰り際に立ち話、いつまでも手を振ってくれた女将の姿がバックミラーに小さくなっていく。「お元気でね」

【宿泊料金】@8,500、これにサービス料2,000円が理解できなかった。

【通信簿】 部屋 3、料理 4、風呂 4、サービス 3、設備 2、清潔感 3、
立地 3

【総合】★★★★



静泉荘



内風呂



宿の前の共同湯（左側が道路）

④ 末広（山鹿温泉）

満願寺温泉から西へ車で1時間50分。観光スポットの山鹿灯籠民芸館や八千代座に近い市街地にあるこじんまりした宿。

部屋数10、風呂4、JR九州八十八湯めぐり対象施設。アルカリ性単純泉。

出入り口は別だが銭湯と共用している。150円で地元の人が多い。マニアの評判もまずまず、街中の宿もたまには良いのではと予約したがハズレ。

出迎えてくれたのは無愛想な初老の男、事務的な仲居（銭湯の番台や配膳、フロントもやっていた）他の客はおらず、聞いてみると平日はほとんど宿泊客がいないとか。この日も貸し切りだった。

風呂は清潔そうな白いタイルの2浴槽。ぬる湯でややツルツル。先客3名。両肩に入れ墨をした二人連れが長湯をして落ち着かない。先に出た。残念なのは朝湯がないこと。加温の油代を節約のためらしい。

【宿泊料金】@10,000

【通信簿】部屋4、料理3、風呂3、サービス2、設備3、清潔感3、
立地2

【総合】★★★★

（写真を撮る気にならなかった）

⑤ 那古井館（小天温泉）

山鹿温泉から車で南へ約1時間、ミカン山に囲まれた静かな里。夏目漱石が小説「草枕」を書いた地でそれを売りにしている。ミカンの産地でもある。明治元年創業の老舗旅館。入口に「温泉や水滑らかに去年の垢夏目漱石」の句碑がある。

部屋数5、風呂4、静寂に佇む湯の宿。

チェックインの時、女将さんが「露天風呂付きの部屋が空いておりましたのでそちらにしておきました」と舞い上がるようなご託宣。

（後から調べたら@25,000の部屋だった）

和洋二間の持て余すような広い部屋。露天ぶろは湯を張る必要があり大きな内風呂にした。敷地の中から湧き出ている単純アルカリ泉、無味無臭、にごり湯や硫黄の匂いが好きな人には物足りない。

料理にもこのお湯を使っている。ぬる湯と熱湯の浴槽で片方は加温している。

夕食は美しい器に綺麗な盛りつけの御馳走がこれでもかと言う程次々

と出てくる。女将さんが配膳や蒲団の上げおろしまでしてくれるのにビックリ。余談だが旅館の後継ぎがいやで結婚、夢破れて出戻りし旅館業に打ちこんでおり兄が厨房を仕切っている。

【宿泊料金】@14,000

【通信簿】部屋 5、料理 5、風呂 4、サービス 5、設備 5、清潔感 5、
立地 5

【総合】★★★★★



那古井館入口



漱石の句碑



那古井館内湯

《外湯編》

阿蘇の北側には優れた共同湯が多い。なべてぬる湯である。しかも料金が安い。100円から200円ぐらい。地元住民の銭湯の雰囲気。

① 奴留湯温泉

満願寺温泉の西北、小国町の小さな集落にある共同湯。近くに地元出身の北里柴三郎記念館がある。やや不便な所だが、最近温泉マニアの評価が高い硫黄泉。

地元住民によって守り継がれている由緒ある共同湯。昔一度訪ねたことがあるが、様子は変わっていなかった。透明なぬる湯が浴槽に溢れており底に大きな石が敷き詰めてあるので歩きにくい。入口の箱に200円入れて入る。誰も先客はいない。静かに目をつむる。幸せだなあ！



奴留湯温泉



浴槽

② 宝田温泉 宝の湯

山鹿温泉から南へ、田園地帯の中にある共同湯。ナトリウム炭酸水素塩泉。午前10時過ぎに立寄ったが満車状態。小奇麗な建物にハキハキしたお嬢さんが受付をしており200円を払って浴室へ。大きな内風呂に、15人は入れる露天風呂がある。圧倒的に露天がおすすめ。ツルツル感ときめ細かい泡がまとわりつく。陰毛は霧氷状態。時間的に老人が多い。目をつむってお湯に浮かんでいる様は合掌したくなる。



宝の湯案内板



宝の湯

《観光編》

① 白川水源

日本の名水百選で南阿蘇を代表する水源地。阿蘇の周辺には多数の名水が湧き出ている。以前来たことがあるが全く変わっていなかった。年間14℃の清流に壺円玉が投げ込まれているのは違和感がある。



湧水口



句碑

② トロッコ列車「ゆうすげ号」

南阿蘇鉄道の立野から高森間、17.7kmを走る観光列車。車を高森駅に置いて往復した。阿蘇五岳や外輪山の風景が車窓を流れ温泉の湧く駅や名水の水源地も見られる。土、日、祝日のみ運行、片道50分970円、満席だった。貨物車を改造して木製の椅子のため乗り心地は良いとは言えない。冷たい風にも当たり行をしている感じ。



トロッコ列車（立野駅）



年代物の機関車

③ 阿蘇中岳

これまで何度か来たところ。ロープウェイの駅まで行って火口まで登る

かどうか思案した。少しガスっているし初めてではないので今更登って火口の中だけ（中岳）見てもつまらないと近くの草千里へ向かった。

④ 草千里ヶ浜

直径1キロの大草原。放牧期には雨水が溜まって出来た大きな池の周辺で牛や馬が草を食む牧歌的な風景が見られる。阿蘇火山博物館で時間をつぶし、昼食を終えて山を下ろうと思っていたら突然の濃霧、50m先も見えない。しばらくするとサッと霧はいなくなった。阿蘇の空は浮気者だ。

⑤ 阿蘇神社

阿蘇の北側にある荘厳な雰囲気漂う古社。楼門は日本三大楼門の一つに数えられている。誰が祀られているかは興味が無いのでパス。ガイドブックの写真ほど大きな神社ではなかったがイチョウの紅葉が見ごろだった。賽銭はパス。



阿蘇神社楼門



境内のイチョウ



おみくじ売場

⑥ 仙酔峡

阿蘇神社から7.4km南にある山の中腹にある観光地。車で50分ほどかかる。5月中旬にはミヤマキリシマで山全体がピンク色に染まる。つつじの記憶を辿りながら行ってみた。どうも様子がおかしい。数人の観光客がうろうろしていたが、店もお目当てのロープウェイも閉じたまま閑散としている。あとからネットで調べたら2010年5月にモーターが故障、直す資金がなく営業休止中で目途もないとか。付近の山肌に今年7月の九州北部豪雨の爪痕が痛々しい。



豪雨の爪痕

⑦ 大観峰

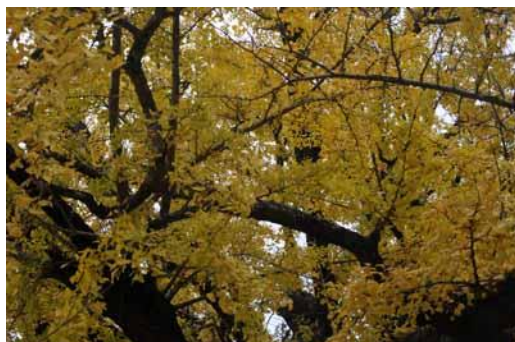
あまりにも有名な阿蘇のナイスビューポイント。外輪山の標高936mからの阿蘇五岳とカルデラの眺めはここしかない。しかし、訪ねた日は好天にも拘わらず靄がかかって写真には最悪だった。



中岳見えます？

⑧ 遊水峡と下城大イチョウ

杖立温泉からR212を1キロメートル南（阿蘇方面）走ったところにある隠れた名所。国道からは道が狭くどこに行くのか不安になる。長さ300m幅25mの巨大な一枚岩を清流が流れる景勝地。紅葉を眺めて川沿いの遊歩道を歩くのは何とも言えないいい気分。小さなレストランのハヤシライスが絶品だった。大イチョウは国道沿いだが、国指定天然記念物。少し散り始めて黄色い絨毯が敷き詰められていた。



下城大イチョウ



黄金の絨毯



遊水峡



遊水峡の紅葉

⑨ 菊池溪谷

阿蘇の西北に位置する溪谷。原生林に覆われた森林と阿蘇外輪山の伏流水が流れる溪谷は見事。有名な所だけに駐車場は満車だった。遊歩道沿いには滝や岩を食む清流が時間のたつのを忘れさせる。紅葉には少し早かった。



菊池溪谷

⑩ 万田坑

山鹿温泉から車で西へ1時間、荒尾市にある三井三池炭鉱の主力坑として近代の重工業を担ったことから世界遺産暫定リストに登録されている。明治22年に開坑現在でも第一堅坑、第二堅坑が残り揚機室、櫓など一部内部が見学できる。係が付きっきりで説明してくれて1時間。入場料400円。カメラを車に残して入ったのが運のつき。

《レンタカー》

近頃はマイカーで遠出するのはきつくなったので目的地でレンタカーを借りることが多くなった。

いつも利用する日産レンタカーは割引キャンペーンをやっていなかったもので、メジャーではないがパジェットレンタカーに申し込んだ。アメリカの会社なのだが日本では新出光が九州地区を中心に展開している。熊本駅新幹線口から徒歩3分、ホンダのフィットを7日間借りて34,190円、同じ条件でニッポンレンタカーでは42,525円だった。今回もカーナビが迷走、とんでもない道なき道を案内してくれる。あらかじめ目的地を確認しておくことが必要。

「迷走のカーナビやめてかかあナビ」ご参考までに。(了)